

市川市少年野球連盟 DV対策・児童虐待研修会
2019/5/25

パパコーチを加害者にしないために



NPO法人 虐待から子どもを守る支援ネットワークちば
木野内由美子

自己紹介

- **NPO法人虐待から子どもを守る支援ネットワーク事務局長**
- **児童相談所勤務（心理司）**
- **中学校、高等学校でのスクールカウンセラー**

などを経て

- **市役所の児童虐待対応部署勤務（H22年より）**
- **市川市保育クラブ巡回相談員（H17年より）**
- **高校時代ソフトボール部**
- **柏市少年野球チームコーチ経験**

本日お話ししたいこと

- 児童虐待について
- 体罰と児童虐待
- 子どもへの影響は？
- しつけと体罰
- スポーツ場面での子どもへの影響
- 野球グラウンドでの出来事を家庭に持ち込まないために
- 体罰の正当化
- どうすれば体罰、暴言を使わずに子どもとの関係を構築するか

●DVとは・・

ドメスティックバイオレンス

配偶者や恋人など親密な関係にある、又は
あった者から振るわれる暴力（配偶者間だけ
ではない、夫→妻間だけではない）

●児童虐待とは・・

チャイルドアブ्यूズ

児童や幼児などに対する虐待行為の総称。肉
体的な虐待のほか、性的虐待・心理的虐待・
ネグレクト（育児放棄）などの行為も含まれ
る。

児童虐待とは・・・

チャイルドアビューズ=child Abuse

Abuse ⇒ 虐待

Ab・・・アブノーマルのAb

違い、異なるなどの意味 = 乱用

Child Abuse = 子どもの乱用

子どもへの虐待

- ・ 自分の感情を子どもに向ける
- ・ 子どもを思い通りにしようとする
- ・ 子ども放置し、自分本位の行動をとる
- ・ 自己の問題を子どもに問題にする など

体罰と児童虐待

- 体罰のイメージ

暴力、殴る、蹴る、叩くなど

- 児童虐待は..

・身体的虐待 ・心理的虐待 ・性的虐待 ・ネグレクト

度重なる児童虐待事例

（平成30年目黒5歳女児死亡事例・平成31年野田市小学女児死亡事例）により
「体罰禁止」が児童虐待防止法に記載される方向（閣議決定）

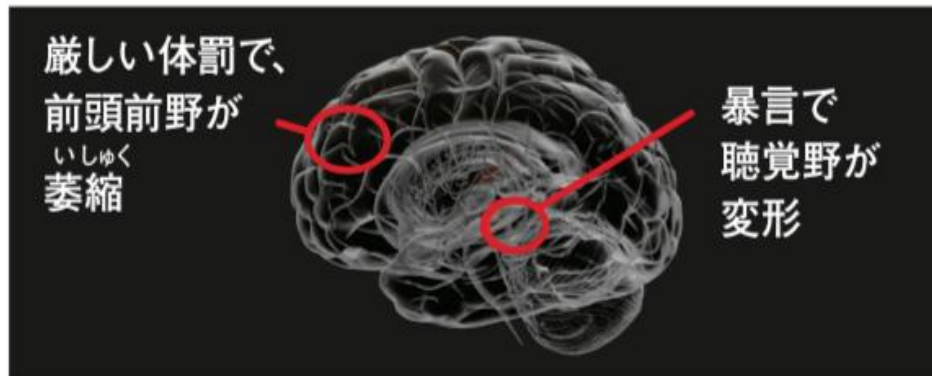
体罰＝暴力のイメージ

児童虐待は暴力だけではない

子どもへの影響は？

- 脳画像の研究により、子とも時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生していることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりであっても、子ともには目に見えない大きな影響を与えているかも知れないのです。
- 厳しい体罰により前頭前野(社会生活に極めて重要な脳部位)の容積が19.1%減少
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)
言葉の暴力により、聴覚野(声や音を 知覚する脳部位)が変形
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)

●子ども時代の辛い体験により傷つく脳



提供：福井大学 友田明美教授

NHKプロフェッショナルにて放映
福井大学 友田医師の研究
厚生労働省「愛の鞭ゼロ作戦」より

その他の影響

●大人への不信感

人間関係形成の問題

●自尊感情（自分らしくあること）の低下

自身のなさ 無気力 学力の低下

●自分の感情を「暴力」「暴言」で表現していいと誤学習

暴力肯定 暴力優位の人間関係構築

●自分の体験を、自分が親になった時に再現する

児童虐待の世代間連鎖

●人格形成上の大きな問題

人格形成上の弊害へ

体罰の6つの問題性

82

1. 大人の(感情)のはけ口であることが多い
2. 子どもに恐怖感を与えることで子どもの言動を(コントロール)する方法である
3. 体罰は即効性があり、それを使うことで他のしつけの方法が分からなくなる
4. 体罰はしばしば(エスカレート)する
5. 体罰を見ている他の子どもにも深い心理的(ダメージ)を与えている
6. 取り返しのつかない事故を引き起こす

体罰、暴言は子どもにとって、
ひとつも良い事はありません！

では、どうすれば良いのか

体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかも知れないのです。

●子ども時代の辛い体験により傷つく脳



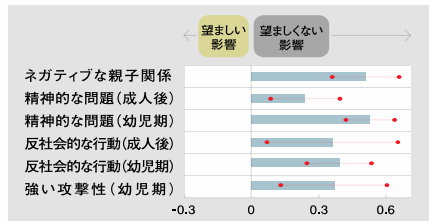
提供：福井大学 友田明美教授

- ・厳しい体罰により、前頭前野（社会生活に極めて重要な脳部位）の容積が19.1%減少
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)
- ・言葉の暴力により、聴覚野（声や音を知覚する脳部位）が変形
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)

体罰は百害あって一利なし。子どもに望ましい影響などもたらしません。

親による体罰を受けた子どもと、受けていない子どもの違いについて、約16万人分の子どものデータに基づく分析が行われています。その結果、親による体罰を受けた子どもは、次のグラフのとおり「望ましくない影響」が大きいということが報告されています。

●「親による体罰」の影響



出典のデータを用いてグラフを作成

幼児期の体罰によって、子どもから親への信頼や愛情が損なわれたり、うつ・著しい不安・多動など精神的な問題を持ったりすることがあります。周りの人を傷つけるなどの反社会的な行動が増えたり、感情的にキレやすく攻撃性が強くなったりすることもあります。その影響は幼児期だけにとどまらず、成人になっても続く可能性があります。

(Gershoff ET, Grogan-Kaylor A, J Fam Psychol. 2016)

既に子どもへの体罰等を法的に全面禁止している国は世界50か国以上！

国連「子どもの権利条約」では、締約国に体罰・暴言などの子どもを傷つける行為の撤廃を求めています。

子育ての悩みがあるときは、最寄りの市町村の子育て相談窓口
または児童相談所全国共通ダイヤル「189」にご連絡ください。



子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

子育てをしていると、

子どもが言うことを聞いてくれなくて、

イライラすることもあります。

つい、叩いたり怒鳴ったりしたくなることもありますよね。

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、

恐怖により子どもをコントロールしているだけで、

なぜ叱られたのか子どもが理解できていないこともあります。

最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか

「虐待」へとエスカレートしてしまうこともあります。

体罰や暴言による「愛の鞭」は捨ててしまいましょう。

そして、子どもの気持ちに寄り添いながら、

みんなで前向きに育んでいきましょう。

平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 健やか次世代育成総合研究事業

「妊娠・分娩・健康診査の評価および自治体との連携の在り方に関する研究」(研究代表者 立花良之)

「母子の健康改善のための母子保健情報活用に関する研究」(研究代表者 山縣然太郎)

作成協力：認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事 高祖常子／福井大学子どものこころの発達研究センター教授 友田明美
JST/RISE「公私空間」研究開発領域「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」プロジェクト

愛の鞭をやめて、 子どもを健やかに育みましょう。

子育てにおいて、しつけと称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があります。以下のポイントを心がけながら、子どもに向き合しましょう。

POINT

1

子育てに 体罰や暴言を使わない

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、叩くことによって得られた子どもの姿は、叩かれた恐怖によって行動した姿。自分で考え行動した姿ではありません。

「愛の鞭である」と親が思っても、子どもにとって大人から叩かれることはとても怖いことです。ちょっと叩かれただけ、怒鳴られただけでも、心に大きなダメージを受けることもあります。

子どもだからといって、暴力や暴言が許されるわけではありません。それに体罰や暴言は「虐待」へとエスカレートする可能性もあります。「叩かない怒鳴らない」と心に決めましょう。



POINT

2

子どもが親に 恐怖を持つと SOSを伝えられない

親に恐怖を持った子どもはどのような行動を起こすでしょうか。親に気に入られるように、親の顔色を見て行動するようになります。

また、恐怖を持つ親に対しては、子どもが心配事を打ち明けられなくなります。心配事を相談できないと、いじめや非行など、より大きな問題に発展してしまう可能性もあります。

POINT

3

爆発寸前の イライラをクールダウン

子どもが言うことを聞いてくれないときに、イライラすることは誰でもあること。でも、疲れていたりして、もともと抱えているストレス度が大きいと、子どものちょっとした行動（おもちゃの取り合い、すぐに動かないなど）をきっかけに、イライラが爆発してしまうことがあります。

イライラが爆発する前に、クールダウンするための、自分なりの方法を見つけておきましょう。



イライラしたときはクールダウン
深呼吸する、数を数える、
窓を開けて風に当たるなど

POINT

4

親自身がSOSを出そう

育児の負担を一人で抱え込まずに、家族に分担してもらったり、自治体やNPO、企業などのさまざまな支援サービス（ファミリーサポート、家事代行サービス、一時預かりなど）の利用も検討しましょう。子育ての苦労について気軽に相談できる友だちもできるといいですね。



POINT

5

子どもの気持ちと行動を 分けて考え、育ちを応援

子どもに「イヤだ!」と言われたとき、親自身が戸惑うこともあるでしょう。でも、2、3歳の子どもの「イヤ」は、自我の芽生えであり、成長の証しでもあります。「どうしたらいいかな?」と、子どもの考えを引き出し、必要に応じて助け船を出しながら、子どもの言い分を気長に聴きましょう。

「わがままな子になっては困る」という想いから、親は指示的に対応してしまうこともありますが、子どもの成長過程で必ず通る道だと大らかに構えて、子どもの意思を後押ししていきましょう。



私たちが実践していること

反省を促したり、厳罰を求めるではなく

虐待をなくすことは、一緒に
「別の方法」を考える事

具体的には ・ ・

①暴力・暴言の原因を意識する（パターンを探す）

- ・ いう事を聞かない
- ・ 宿題をしない
- ・ 反抗的な態度など

②暴言・暴力を使わなくても良かった事を探す

（うまくいった事を探す）

- ・ 注意しなくても出来た
- ・ 自発的に出来た
- ・ 言う事を聞いた

③こうなりたい事を明確にする（目標を探す）

- ・ いつでも自発的にしてほしい
- ・ 暴力・暴言はなくしたい

スポーツ場面での子どもへの影響

- 感情を子どもにぶつけていませんか？
- 子どもに恐怖感を与えていませんか？
- 感情的にコントロールしようとしていませんか？
- 暴言は即効性があり、他の方法を使わなくなっていないませんか？
- 暴言がエスカレートしていませんか？
- 暴言を聞いている他の子どもにも影響を与えていませんか？
- 取り返しのつかない事故になるような事はありませんか？

野球グラウンドでの出来事を家庭に持ち込まないために

社会(会社・職場)

コーチ(ボランティア)

家庭

社会的立場
求められる成果
人間関係
達成感
ストレス

コーチという立場
ストレス発散？
気軽な立場

家族というコミュニ
ニティ
親としての役目
躰をしなくては
いけないプレッ
シャー

それぞれが独立しているべき
持ち込まない

体罰の正当化（木野内の考え）

子どもへの虐待通告があり、その理由を聞くと

「部活で体罰があったが感謝している」

「カツを入れた事で頑張り、試合に勝てた」

「だから子どもにも実践している」



本当にそうでしょうか？

- 部活、スポーツでの体罰、暴言が良かったと思えるのは、部活の成績が良かった？
- その競技の成績がよく、目標を達成できたから？
- 監督、コーチの体罰、暴言があっても、それを上回るケア、自尊感情のフォローがあったから？

そんなことはないだろう・・・と思う理由

高校でソフトボール部で監督の暴言、ケツバットあり

「やる気あるのか」「下手だから帰れ」「ばか、ぼけ」

「ミスしたら謝れ」etc・・・

理不尽としか感じなかった
納得できない
監督への不信感

でも辞めなかったのは...

- 仲間との絆→生涯の友達
- ソフトボールが好き
- 仲間と同じ方向を向けている（監督に迎合しない）

どうすれば体罰、暴言を使わずに 子どもと関わるか考える時です

「体罰禁止」がうたわれています。

現代の子どもとに体罰や暴言が必要かどうか

見直す時がきています。これを機会に

家庭でもグラウンドでも、子どもとの安全で、安心な

関わり方を見直して頂きたいと思います。

体罰、暴言が「子どもへ影響を与える」という事を

常に考えて頂きたいです。

参考に . . .

◆ユニセフ子どもの権利とスポーツの10の原則

<https://childinsport.jp/>

◆デンマークサッカー協会の少年指導10か条

<https://www.sakaiku.jp/column/mental/2013/004231.html>

ジュニアサッカー(少年サッカー)の保護者向け情報サイト内で紹介

- ・デンマークサッカー協会 少年指導10カ条
- ・保護者に向けての10カ条

ご清聴ありがとうございました

